

# あすなろ

静岡県伊豆市小下田 2492 駿豆学園 令和6年3月31日 241号  
TEL0558-99-0248・FAX99-0258



# 支援者の矜持

園長 天良 昭彦

日であり生活であるという事。我々支援者は、日々の業務に追われながらもその視点を失ってはいけません。駿豆学園職員倫理綱領の前文には

年度末を迎え、春の訪れとともに令和五年度を振り返る総括の時です。コロナウイルスは多少沈静化したものの、令和五年度も八月末から九月初旬にかけての第九波、そして一月下旬には再び感染警報レベルを超える事態となりました。また、インフルエンザも十一月下旬には感染警報レベルを超え、入所施設にとって

は変わらず感染症に対し油断できない一年でしたが、コロナ、インフルエンザともに利用者一人の感染者を出すことなく乗り切ることができました。

日常生活はほぼ平常となり、大きな行事はコロナ禍前同様とはいかないものの、ご家族や外部の方々にもご来園いただき、徐々にかつての状態に戻りつつあります。

さて、このような状況下でしたが、利用者に対し基本理念にある「豊かで安らぎのある生活」を提供できたのか、しっかり検証しなければならぬと考えています。利用者にとって学園での毎日は、一人の人としてかけがえのない人生における貴重な一

「私たち駿豆学園職員は、利用者一人ひとりの人間としての尊厳を守り、利用者が豊かで安らぎのある生活を送れるように支援することを責務とします。」

私たちの業務は、利用者や御家族の生活に大きな影響力を持ちます。利用者の人生を託されているという思いを深く受け止め、支援者のひとりとして確固たる倫理観をもち、利用者援助の専門職として自らの役割と責務を自覚し、その使命を果たさなければなりません」とあります。

迎える令和六年度は、報酬改定の年でもあります。新たな制度や法改正等により、年々福祉従事者に求められる事柄が多様になっていることは事実であり、対応に苦慮している現実はありません。ですが、その基本にあるのは利用者のかけがえのない人生という視点。利用者本位の原点に立ちかえり令和五年度を総括し次年度へ繋げて参りたいと思います。

一人ひとりが、障害福祉従事者としての矜持を胸に日々支援にあたる職員集団でありたいと思います。

# 令和六年度当初予算について

総務課長 山口 深志

令和六年度当初予算が、去る令和六年二月八日の組合議会において可決成立しましたので、ご報告いたします。一般会計予算は、歳入、歳出それぞれ三億一千四百万円を計上し、前年度と比較すると一千百万円、約三、四％減額での計上となりました。

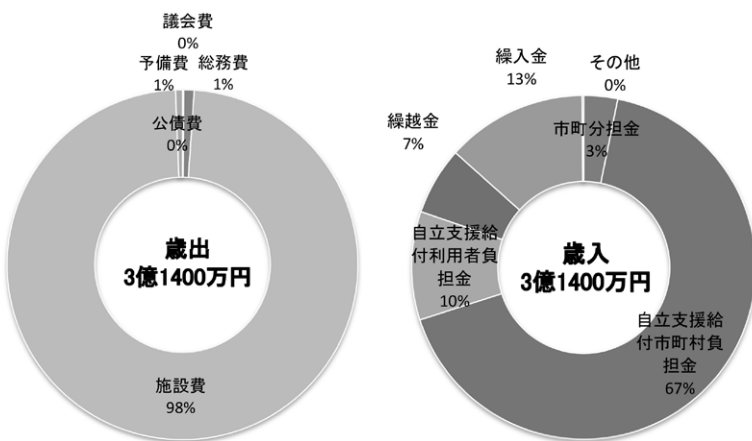
主な予算科目について説明します。

歳入ですが、収入の約七割を占める、自立支援給付市町村負担金を前年度と同額の二億一千万円計上しました。令和六年度は三年に一度の報酬改定の年です。改定内容により報酬が増減しますので、前年度と同額の計上としてあります。歳出を積み上げていくと令和六年度についても歳入不足が見込まれます。基金繰入金を財政調整基金、施設整備基金の合計で、前年度比一千五百五十万円、約二十一、七％減額の四千五百五十万円の計上となりました。

次に歳出ですが、議会費、総務費については大きな変化はありません。施設費について、前年度比約一千百万円、三、五％減額の約三億九百万円を計上しました。施設

長寿命化工事費を一千八百万円計上、また、法改正により会計年度任用職員へ支給する勤勉手当を百万円計上しました。

物価の上昇により、電気代などの光熱費や食材等が高騰し歳出の増加が顕著になっており、それに伴う人件費の上昇により財政が圧迫されています。利用者がより良い生活が送れるよう、安定した歳入となるような報酬改定を期待しています。



## 1年の振り返り

支援課長 木村 悦治

本年度も更に活動の幅を広げていくような計画をしてきました。その中で家族やボランティア、地域との交流をどのように進めていくかを課題として考えていきました。

行事では駿豆ふれあいフェスティバル、クリスマス会をご家族とボランティアが参加して行うことができたことは本当に嬉しかったです。実施にあたっては、感染対策を踏まえ、食事の方法など検討を重ねて以前とは違った新たなスタイルを取り入れてみました。利用者の皆さん、またご家族の方々も久しぶりの施設での行事をとて楽しんでいました。また、土肥小中一貫校、伊豆総合高校土肥分校の生徒さんが、こちらも数年ぶりにボランティアに参加をしてくれて行事を盛り上げてくれました。対外的なイベントとして、わかふじ水泳大会、オレンジマラソン大会に参加をし、こちらも以前と同様の競技内容となっており、参加した利用者の皆さんは、事前練習を行う等、頑張る姿がみられました。また各市町で行われる健康福祉祭等のイベン

トに利用者の方も参加をして木工製品や小物、アクセサリー等の展示販売を行い、地域の方々と交流することができました。

そしてリフレッシュツアーは、三月に八名の利用者の方が一泊で熱海伊東方面に行ってきました。日帰りでの企画が中心でしたが、利用者の方からは「泊りで行きたい」との要望が多く、感染症の状況を確認しながら計画をしていきました。帰園した後、「楽しかった」と皆さん笑顔がみられ、また来年度も楽しい企画にしていきたいと思えます。

コロナ禍の三年間、利用者の方々は、外に出ることが少なく、行事も施設内で職員と行い社会参加や交流ができない日々が続いていました。それゆえにストレスとなることもあったと思えます。外出活動、そして日中活動においても積極的に外に出る機会を増やしていきたいです。今年度は大きくその一歩を踏み出すことができました。来年度は更にその幅が広げられるよう、感染対策も含めて検証をしていき、利用者の方々の、豊かで安らぎのある生活に向けて支援をしていきたいと思えます。

## ふと思いついたこと

看護師 山田 美津子

かつて病院に勤務していた時、偶然にも誕生と死が重なった日がありました。

「生と死」喜びと悲しみを味わった日でした。仕事上とはいえ感情は複雑で、出産した方の部屋では、笑顔で喜び、亡くなった方のところでは、涙を流し・・・

こんなに裏表のある、なんて人間なんだろうと思いました。

看護室に戻りふと、ため息をついてしまうと、同僚も同じ事を感じていたと話してくれ、救われたことを覚えていきます。そして、これが仕事であり、感情をコントロールしないといけないと思いつながら、素直に喜んだり悲しんだりしても良いのだと思えた日でした。

生と死に関わる人が多いと、僕かでも、お一人お一人の今まで生きてきた人生観を会話の中で感じさせて頂いたことで、自分のことと置き換えて考えるきっかけになったように思います。今の自分に活かせているかどうかは、わかりませんが・・・いつか、自分も最期を迎える時、どう生きてきたのか誰かと話せたら幸せと思えるのかもしれない。最近、ふと思ったことでした。

## 給食だより

栄養士 鍵山 智美

利用者の皆さんが日々喫食されている食事の形態は、現在「常食」、「きざみ食」、「ソフト食」の三種類です。きざみ食は基本的に常食を食べやすいよう、刻んだものになります。一方ソフト食は、一般的に咀嚼がやや難しくても、嚥下は出来る方が対象で、形態としてはまとまりがあり、こぼれにくく、上あごと舌、歯茎でつぶして噛むことができ、なおかつ飲み込みやすいものとなっています。

私が栄養士として働き始めた頃は、ソフト食というものはあまり一般的ではなく、きざみ食が食べられなくなる、ミキサー食への移行というパターンが多かったと記憶しています。ミキサー食は調理の際、加水をするため栄養素の不足が生じたり、ドロドロとした見た目が何を食べているのかわからないという声がありました。しかしソフト食を調理する際に必要な増粘剤の改良や、「口から食事を摂る」大切さが認知されるとソフト食は今では重要な食事形態の一つとなっています。

# 日中活動



カレー作り



## 大地班



きれいに磨き上げます！



## あおぞら班



土肥桜素敵だね！



駿豆列車しゅっぱ〜つ！！



# 外出風景



1班 ぽかぽか陽気で気持ちいいね



2班 美味しいご飯まだかな〜



あつあつ！  
ホカホカ！！



3班 ほっぺが落ちそう〜



4班

# 各クラブ活動風景



おやつ



大きく、のびい〜!

スポーツ



招福祈願!!

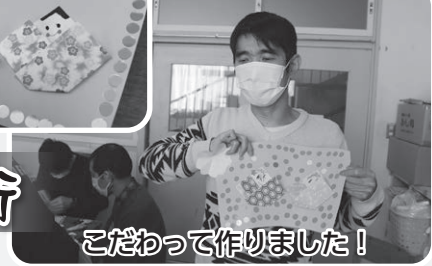


音楽



かわいいおひな様が完成したよ!

美術



こだわって作りました!



リフレッシュツアー

伊東・熱海の温泉へ行ってきました



**ボランティアのお願い**

学園では、繕い物や草取り、その他の軽作業等の出来る方を募ります。短い時間でも結構ですので、駿豆学園にお出かけいただけませんか。お待ちしております。

**ふれあい広場**

- ― 善意を寄せられた方々 ―
  - 松島(株)様
  - 八木沢郵便局様
  - 齋藤 昭則様
  - 金刺 甚一郎様
- 皆様のご厚意に御礼申し上げます

**【お知らせ】**

面会をご希望の方は、事前に電話にてご確認ください。パソコン等を利用したりモートでの面会も実施しております。駿豆学園ホームページでもあすなろを閲覧出来るようになっていきます。アドレスは [www.sunzugakuen.jp/](http://www.sunzugakuen.jp/) になります。ぜひ御覧ください。

**編集後記**

桃の節句も過ぎ、早春の息吹を感じるこの頃、今年度もあすなろで利用者の皆さんの様子をお伝えすることができました。今後も彩りある生活を送っていただけるよう支援していきたいと思えます。何かと忙しい季節の変わり目かと思いますが、来年度もよろしくお願ひ致します。